



12月

今月の江戸しぐさ、 「駕籠止めしぐさ」(最終回)

訪問する際に、駕籠で玄関に乗りつけることは下品とされ、手前で降りて、歩いてきたように振る舞うことが粋とされました。

謙虚であれという教えです。

実は、この謙虚であるということは、日本人を特徴づけるものと言われます。自然物に畏敬の念を持つたり、公共物を大切にしたり、人をきずかたりする健全な姿勢は謙虚な心のありかたが基本になっています。

また、技術や学問に対して精進する態度も、職人の仕事に例えられるように、慢心せず更なる高みを目指す謙虚な心のありかたに基づいています。(幕末、日本の職人の仕事の完成度は欧米の観察者に驚きをもって紹介されていました)

時々、日本人の謙虚な姿勢が国際社会で弱さとして語られることがありますが、それは表面上のことで、結局は内容がすべてを表します。

日本人の謙虚な心のあり方は、実は弱さではなく国の力を強くしている大きな原動力になっているのです。

謙虚な人は強い人です。深い洞察と自信に基づいているからです。薄っぺらな人ほど虚勢をはります。(謙虚とへつらうことは次元が異なります)

私達の職場でも謙虚な心は大切なものです。慢心は思い込みを生み誤診や間違った医療の原因になってしまいます。常に謙虚に精進する心のありかたは私達の仕事にとっても大事なものです。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

現在の日本があるのは突然のことではありません。おそらく縄文の時代からの絶え間ない継続の流れが、江戸思草などの道徳観念を作ったと考えられます。

残念ながら、現代、日本人に自信を持たれては困る、反日日本人やなりすまし日本人が沢山存在しています。

敗戦が原因だと考えられますが、そろそろ私達は民族の歴史と能力に自信を持ってよい頃だと思います。



お隣さん

ヘレン・ハイド
Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。
江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。

